

来賓挨拶

名古屋大学理事 (研究・国際交流関係担当)・副総長
山本進一

名古屋大学農学国際教育協力研究センター第8回オープンフォーラムの開会にあたり、名古屋大学を代表して一言ご挨拶申し上げます。

今回のオープンフォーラムは、国際教育協力の様々な分野で先進的な活躍をされている我が国の大学と、文部科学省、国際協力機関の皆様方にお集まりいただき、国際教育協力を一層推進するための議論を行うものです。2日間に亘る、皆様の発表と、討論を通じ、今後の大学における国際教育協力を推進していく上で抱えている制度上の問題点が明らかにされ、大学が組織として一層国際協力に参加してゆく方向性が示されることが本フォーラムの狙いです。

大学の国際化の柱は国際交流と国際協力であり、先進国の研究者との共同研究、途上国の研究者との研究協力、これらの国から我が国大学への研究者の受入、学生の教育が主な活動です。名古屋大学には、現在全学で1,100名を越える外国人学生が学び、800名を越える外国人研究者が研究に従事しています。

当大学の国際教育協力の活動の一端をご紹介しますと、教育・研究機関として、1991年に設置された大学院国際開発研究科がございます。ここには、150名を越える外国からの留学生を含め330名の学生が学び、異文化理解に立脚した国際性と実務能力を習得し、将来実践的な国際協力のプロフェッショナルを育成することを目指しています。

また、当大学には、社会主義体制の国にありながら市場経済化を標榜している体制移行国にわが国の法体系を紹介、導入することを目的として、アジアの国で法制度整備支援を行なっている2002年設立の法政国際教育協力研究センターもございます。

これらの大学院、センターと並び、当農学国際教育協力研究センターは、1999年に農学分野における人づくりの国際協力を推進する研究組織として設立され、現在ケニア、タンザニア、ウガンダの15の大学を支援するアフリカ人作り拠点プロジェクトやカンボジア王立農業大学の教育制度の整備・人材育成に協力してきました。途上国の農学教育分野でのネットワークの構築と連携・調整、途上国の農学教育の意思を有する約2,000人の人材のデータベースの整備と、専門家の検索、専門家として海外で活動する意思を有する人材の研修、途上国のカウンターパートの研修などの業務を行なってきました。

名古屋大学の国際開発協力の活動は、2005年12月に国際連携による研究重点大学をめざして制定された名古屋大学国際化推進プランの3本柱として国際学術研究、国際教育交流とともに、具体的に到達目標と行動計画を示しており、当センターの活動はこのプランの推進の一翼を担っています。国立大学法人化後の大学を取り巻く状況の変化を受け、プランは残念ながら十分な取組が行えていない面もあるというのが実情です。

今回のフォーラムでは、今後のより良い国際協力の実施のための実りある議論がなされ、制度の改善に向けた具体的な考え方が示される契機となることを祈念して止みません。これをもってご挨拶に代えさせていただきます。